遊歩道

小国ネパールから南アジアのファースト・サムライへの道

ゴーレ ブペンドラ クマラ

私の愛する母国ヒマラヤの小国ネパールは、11年間戦争（1996～2006）戦死者約1万5000人、国内難民20万人）をしていた。多くの少年兵、少女兵や子供たちも戦争に巻き込まれ、殺戮と貧困、暴力的環境のなかで混沌とした生活を送っていた。

わたしも13歳の時から「敵を倒すために武道（武術）」を学び続けていた。06年に日本から武道（拳法会）の指導に来ていた佐保先生が「近く、静岡県の浜松からヨーロッパや世界で神様のように想われ、若いころ世界で多くの格闘家と真剣勝負を行い無敗の宗家がくる」と聞かされ心が弾み待ちわびていた。

08年、武道家がカトマンズの空港に降り立った。その人物です！。

翌日、Pokharaの体育館の武道講習会には、多くの人がどんな素晴らしい技を教えてくれるのだろうと集まっていた。はかま姿で帯刀した宗家は、「私を中心に輪になって座ってください」と言ってお話を始めたのです。

「みなさんの国ネパールは、私たち日本の先生です。サムライ（武士）の哲学である武士道の多くは、貴方達の国で生まれた釈迦（仏様）の教えによるもの。武道とは、武士道なのです！」と説いたのち、素早く剣を抜き納め、蹴りの変化技を見せ、みんなの度肝を抜いた。「こんな事（技）は、単なる技術であり〝武道〟ではない。武道とは、皆さん方の一生であり生きる道である。サムライとしての人格形成の手段です」とも説いた。

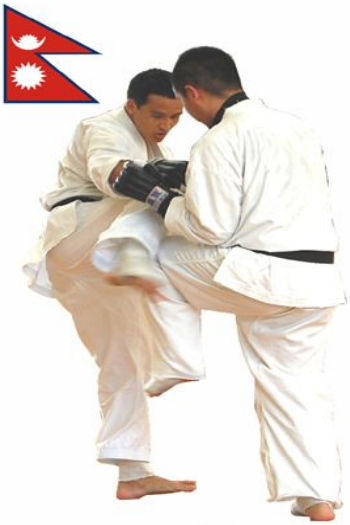
常に敵を倒し勝つ事のみ考えていた私の頭の中に稲妻が走った。「そうだ！日本に行こう！武道に生きよう！日本に渡り武士道を学ぼう！」と、決意しました。（浜松市地球温暖化防止活動推進センター事務局・浜松市中区在住）

8月の遊歩道

ゴーレ ブペンドラ クマラ さん

浜松市地球温暖化防止活動推進センター事務局・浜松市中区在住

▷5日（金）、17日（水）



2011.8.5

遊歩道

南アジアのファースト・サムライをめざして

ゴーレ ブペンドラ クマラ

前回、ネパールから「そうだ日本へ行こう！武道に生きよう！武士道を学ぼう！」と決意したところまで話をしました。

2011年8月7日。所は、静岡県浜松市可美公園総合センター体育館。2011年日本ネパール国際大会と第35回東海地区拳法選手権大会の準決勝のマットの上で対戦相手の大橋正康選手（2011年世界選手権準優勝）を待っていました。1回戦からの戦いで体は、ダメージを受けていましたが、準決勝まで勝ち上がった喜びで一杯でした。さすがに大橋選手は、格段に強く右の肋骨に的確に3度、4度と蹴りを入れてきました。肋骨がキシミ、私は思わずダウンしました。マットに倒れながら「青雲の志」をもって日本に渡って来てからの事が脳裏を横ぎりました。「なんでもないのだ！生きている証なのだ」。私は、再び立ちあがり大橋正康選手に挑みました。残念ながら敗退し4位でしたが、日本人以外のアジア人で初めて優秀選手賞を授与されました。勝った大橋選手は、私の所に来て正座をし「有難うございました」と礼をしました。もちろん私も！

未熟な私は、さらに自分を磨き心技体ともに優れた「南アジアのファースト・サムライ」をめざし南アジアのために貢献していきたいと思います。（浜松市地球温暖化防止活動推進センター事務局・浜松市中区在住）

国連平和維持軍南方面軍
士官たち！

2011.8.17